

答 辞

やわらかな日差しが降り注ぎ、春の訪れを感じる今日、私たち五名はたくさんの思い出が出がまつまった中学校生活を終え、卒業証書を手にする事ができました。私たちが卒業することができたのは、校長先生やたくさんの先生方、支援してくださった多くの方々、地域のみなさま、そして家族のおかげです。

私たちは、一年生の時から新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの当たり前の活動ができない日々が続きました。そのような中で、後輩を引っ張っていくリーダーとなるために全員で助け合いながら成長してきました。後輩たちと過ごした三年間の日々は、私たちにとって唯一無二の時間となりました。私たちの周りにみなさんがいてくれたからこそ、私たちは、唐丹中学校のリーダーとして胸を張って学校生活を送ることができたのだと思います。

中学校生活、最後となった五月の運動会。

初めて全校をリードする立場となり、不安と緊張でいっぱいだったことを覚えています。組団ごとに協力しあいながら、最後まで全力で走りぬぎ、応援することができ、最高の思い出となりました。

そして、部活動の締めくくりとなる中総体一年生の頃から練習してきたことを出し切り一人一人が自分の持っているベストを出し切ることができました。

秋の文化祭は、三年生として全校を引っ張っていく最後の行事となりました。戦争の劇を通して、その時代に生きた人々の思いや、戦争のもたらす悲劇というものを実感することができました。大石虎舞は、指導者の方々にわかりやすく丁寧に指導していただき、本番では、躍動感のある演技を披露することができたと思います。授業、部活動、行事、すべてにおいて、私たちは常に少ない人数で創り上げなければならぬ三年間の日々でした。しかし、その人数が少ないが故の「全員レギ

ユラール」という唐丹中のスタイルが私たちをここまで育ててくれました。

私たち三年生は今、三年間育った学び舎からの巣立ちの瞬間を迎えています。この三年間は大変なことや苦しいことがたくさんありました。そのたびに私たちを支えてくださった先輩、後輩のみなさん、困ったときに優しく寄り添ってくれた先生方のおかげで、今の私たちがあると思います。唐丹中学校で過ごした日々を忘れず、それぞれの夢へと一歩ずつ進んでいきたいと思えます。

最後に、先生方、在校生のみなさまのご健勝と、母校唐丹中学校のさらなる発展をお祈りして、答辞とさせていただきます。

令和五年三月十二日

卒業生代表 岩澤 優真